

景観をどのように理解するか

西村幸夫『まちを想う』第1章「まちの個性を追究する」1 景観の概念-景観の特質をいかにしてとらえ、景観をどのように理解するか、を抜粋して紹介したい。

景観には以下の四つの大きな特質があります。

第一に、景観は総合的な環境指標であること

第二に、景観は一目瞭然であるという性格をもっている

第三に、景観は参加をうながす民主主義的なツールとして有効

第四に、景観を成り立たせている背景を知れば知るほど、よる深く景観を理解することができる

ある土地に立って周辺の風景を見渡したとき、その景観の特徴をとらえるためにはいくつかの固有の視点をもつことが有効です。それを軸と表現するならば、四つの視点の軸によって景観をより広く深くとらえることができると思います。一自然軸、空間軸、活動軸、歴史軸の四つです。

こうした四つの軸を三つのスケール（単体・地区・都市）でそれぞれにとらえるというマトリクスを考えると、景観のとらえ方がより精密に、立体的になっていくといえます。

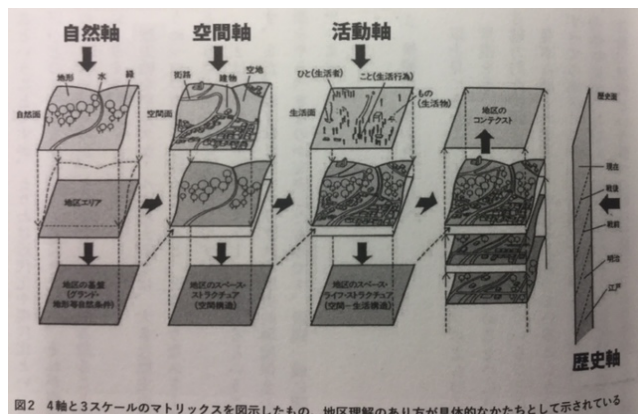


図2 4軸と3スケールのマトリクスを图示したもの。地区理解のあり方が具体的なかたちとして示されている

以上見てきたように景観はボトムアップのまちづくりを進める有力な手がかりです。

景観を手がかりとしたまちづくりを進めるためには、地域住民にとって興味のもてる魅力的な物語を地域の景観が内在させていることに気づくことが必須です。

見事な歴史的建造物や町並みが残っているところであれば、わかりやすいのですが、すべての地区にこのような見やすい手がかりが残っているとは限りません。

そのとき、ここまで述べてきたような景観分析の手法、すなわち景観を自然、空間、活動、歴史という四つの軸に分解してとらえること、同時に都市、地区、単体という三つのスケールで理解しようとすることによって、さまざまな物語に至るおのおのの景観の特質を把握することができると考えます。

(2018年4月23日)